

日時：平成27年10月30日（金）午後1時30分～午後2時45分

場所：苫小牧市役所9階議会大会議室

### ★進行（久慈上下水道部総務課長）

### ★委嘱状交付

### ★開会

苫小牧市公営企業調査審議会開会（委員16名中10名出席、苫小牧市公営企業調査審議会条例第7条第2項の規定による審議会開催の定足数を満たしている。）

### ★市長挨拶

それぞれにご多用のところでありませけれども、まずは、本日お時間をいただき、ご出席いただいていることに心から御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

平成27年度の第1回苫小牧市公営企業調査審議会ということで、ただいま委嘱状を交付させていただきました。任期2年ということになりますが、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

水道にしる、下水道にしる、市民の皆さんにとっては大切なライフラインであります。この両事業を安定的に維持するために、委員の皆さんに、この2年間、さまざまなご意見、ご指摘等々をいただくことになるわけですが、水道事業にせよ、あるいは下水道事業にせよ、おかげさまで、今のところ概ね良好な財政状況を維持しているところでございますが、ご案内のとおり施設の老朽化、あるいは耐震性能の強化、そして、昨今はゲリラ豪雨対策等々もありまして、これらに備えた施策が急務となっている現状でございます。市民生活を守るために、これらの課題を一つ一つクリアしていきながら、安全でおいしい水の安定供給、そして、快適な生活環境づくりに努めてまいりたいと考えているところでございます。

なお、本日は、特に諮問事項等はございませんが、市の水道及び下水道事業の概要を説明させていただき、審議会終了後は、浄水場あるいは下水処理センターにご案内させていただき日程となっております。

簡単ではありますが、冒頭のご挨拶に代えさせていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

### ★各委員自己紹介

### ★市担当者紹介（上下水道部長、部次長 他）

### ★会長、副会長選出

事務局一任の声があり、会長には苫小牧市町内会連合会会長の松原繁次委員、副会長には苫小牧市社会福祉協議会会長の柳谷昭次郎委員を選出

### ★会長、副会長挨拶

★進行（苫小牧市公営企業調査審議会条例第5条第2項により、松原会長が議長を務める）

★各事業概要説明

【松原会長】

それでは、早速会議の次第に従いまして、会議を進めさせていただきます。

水道、下水道事業の概要、平成26年度の決算状況を、一括して事務局の方からご説明いただきます。

★水道事業の概要説明

【新谷上下水道部長】

改めまして、よろしくお願いたします。上下水道部長の新谷でございます。

委員の皆様には、日ごろより、水道事業及び下水道事業に対しまして、ご理解とご協力を賜り、この場をお借りしまして、厚くお礼申し上げたいというふうに思います。また、これから約2年間の任期になりますけれども、事業運営に対して、委員各位の貴重なご意見、ご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

さて、水道事業と下水道事業でございますが、市民の皆様にとりまして、どちらも大変重要なライフラインでありますことから、災害に強い事業運営が求められているところでございます。

東日本大震災クラスの大規模災害時に、迅速な復旧活動ができるようマニュアル化した業務継続計画「BCP」につきましては、既に策定を終えております。現在は、これに基づいた各種訓練を実施しており、大規模災害に備えて、体制を万全に整えているところでございます。

また、近年はゲリラ豪雨が頻発ということで、平成25年の時間雨量90mm、平成26年には100mmという集中豪雨があり、道路冠水やトイレが使いにくくなるなど、市民の皆様には大変ご迷惑をおかけしました。このような豪雨に対しましては、引き続き、即効性のある対策から中長期的に取り組んでいく対策、ハード・ソフト対策など、様々な対策を打ち出して、今後も積極的に取り組んでまいりたいと考えております。

それでは、各事業概要につきまして、説明させていただきます。

最初に、水道事業を、お手元の冊子「水道事業概要平成27年度」に沿って、ご説明申し上げます。

はじめに、3ページをお開き願います。水道事業の沿革でございます。

詳細内容につきましては、省略させていただきますが、昭和27年に給水を開始して以来、昭和37年と49年に拡張事業認可を受けて着手し、今日まで、高丘と錦多峰、二つの浄水場を中心に、各施設の整備を行うとともに、時代の変化に沿いながら、安全安心な水づくりに努めてまいりました。

その結果、昭和60年には、当時の厚生省の「おいしい水研究会」において、人口10万人以上の全国198都市から、「おいしい水道水」32都市の1都市に選ばれました。

しかし一方で、平成8年には、不法投棄による「水道水異臭事故」が発生しております。

水道水の安全性やおいしさに対する、利用者ニーズの多様化・高度化をはじめ、環境問題など、水道事業を取り巻く状況は大変厳しくなっておりますが、市民の皆様へ安全かつ安心な水道水を安定して提供できるよう、事業の将来像や長期的な方向性を確立し、また、健全な事業経営を目指すために、平成19年度に「水道ビジョン」を策定しております。現在は、この「水道ビジョン」を

基本として、事業を運営しているところでございます。

次に、8ページへお進みください。事業認可の変遷でございます。

現在は、計画給水人口18万2千人、計画給水量は、1日最大で8万500 $\text{m}^3$ の給水が可能となる事業を展開しているところでございます。

次に、9ページから10ページの水道料金の変遷でございますが、平成23年10月に家事用料金の改定を行っております。また、昨年の本審議会で答申をいただきました業務用料金の改定につきましては、今月から実施しております。

次に、11ページへお進みください。上下水道部の組織について、ご説明いたします。

上下水道部は、平成19年に水道部と下水道部を統合しまして、現在は11課・施設、18係体制で組織されております。この中には、2か所の浄水場と3か所の下水処理センターが含まれており、職員数は平成27年4月1日現在、正規職員で114名となっております。この他に、嘱託職員・再任用職員27名が配置されており、全体の職員数は141名でございます。

次に、12ページ、水道事業の広報活動について、ご説明いたします。

市民生活に必要な水道水を供給する事業者として、水道事業の役割やその重要性について、市民の方から深い理解と協力をいただくことが不可欠になっております。

市民と事業者の橋渡し役として、上下水道部の広報誌「水だより」を、毎年12月1日に発行しているほか、6月上旬の水道週間に合わせ、浄水場などの施設見学や、源流に近い七条大滝を訪ねる見学会を実施しております。

また、本日お配りしておりますボトルドウォーター「とまチョップ水」も、広報活動の一環として作成したもので、市民の皆様をはじめ多くの方々から「とても美味しい」といったご好評をいただいているところでございます。

次に、15ページにお進みください。水道施設と能力について、ご説明いたします。

水道施設の系統は、高丘浄水場と錦多峰浄水場を中心とする二つの系統となっておりますが、高丘系の水源は幌内川と勇払川、錦多峰系の水源は錦多峰川で、合わせて3つの河川から取水しております。

次に、施設能力は、15ページ下の表に記載しておりますが、上から3行目の取水能力は、3つの河川合わせて1日8万8,100 $\text{m}^3$ 、配水能力は、1日8万500 $\text{m}^3$ でございます。

表の右側、非常用地下水源でございますが、幌内地下水取水場が1日4千 $\text{m}^3$ 、高丘地下水取水場が1日8千 $\text{m}^3$ 、合計1万2千 $\text{m}^3$ の取水能力を有しております。これは、市民一人当たり1日約70リットルの水に相当し、災害時などに備えております。

次に、27ページの災害用備蓄機材について、ご説明いたします。

日の出公園と錦多峰浄水場に貯蔵庫を備え、緊急時のライフライン確保のために、加圧式給水車1台、給水タンク21台、給水容器3万3千個、給水袋は10リットルと6リットルを合わせて1万8,550袋などを保管しております。

また、緊急貯水槽と言いまして、災害時の飲料水を貯水する大きなタンクを水道管の一部として地下に埋設しており、平成26年度までに日の出公園、沼ノ端小学校、泉野小学校、豊川小学校、勇払中学校、ウトナイ小学校、澄川小学校、拓勇小学校の計8か所の設置が完了しております。

このほか、老朽管の更新事業および水道施設・管路の耐震化事業につきましても、年次計画を策定し、計画的に進めております。

次に、30ページをお開きください。給水状況でございます。

平成26年度実績で、表の中ほどのHの欄になりますが、年間総配水量は1,832万6,719 $\text{m}^3$ 、Iの欄の1日最大配水量は5万5,594 $\text{m}^3$ 、Jの欄の1日平均配水量は5万210 $\text{m}^3$ でございました。浄水場の配水能力は、1日8万500 $\text{m}^3$ ありますので、現状では十分に対応できる状況にあります。ちなみに、1日平均配水量の約5万 $\text{m}^3$ は、12階建ての市役所庁舎を入れ物に例えますと、おおよそ10階ぐらいまでとなります。

また、N欄の有収水量でございしますが、これは水道料金の対象となった水量をいまして、年間1,618万3,492 $\text{m}^3$ 、3段下のQの欄の有収率が88.3%ということで、浄水場から出ていった水の約9割が料金収入となっているところでございます。

次に、35ページへお進みください。営業状況について、ご説明いたします。

まず、(1)の26年度給水件数は、家事用7万6,471件、業務用5,909件、その他38件の合計8万2,418件で、前年比456件の増加となっております。

(2)の調定状況でございしますが、件数の割合としましては、家事用が92.8%、業務用及びその他で7.2%となっております。

(3)の収納状況でございしますが、平成26年度の調定額27億5,313万3千円に対しまして、収納額は26億6,167万8千円で、収納率は96.7%となっております。

次に、40ページ以降の予算・決算でございします。

市議会での決算認定は12月になりますが、既に決算委員会におきましては認定が決定しておりますので、別途配布しております、お手元のA4版「平成26年度水道事業会計決算の概要」でご説明いたします。

左の「収益的収支」ですが、これは経営状況を表しております。

収入は、水道料金や水道利用加入金など31億4,020万円、支出は、施設の維持管理費や人件費、国からの借入金利息など34億1,511万7千円で、この差し引きから消費税を除いた純損失は3億8,480万3千円となっておりますが、その主なものは、平成26年度から適用となった新会計基準によるものであり、それらを除外した経常利益は約3億4千万円の黒字となっております。

次に、右側の「資本的収支」ですが、これは設備投資を表しております。収入は、国からの借入金など12億3,288万1千円で、支出は、配水管や施設の整備費、国からの借入金の元金償還などで24億7,014万9千円となり、消費税を除いた収支差し引きは、11億2,912万9千円の資金不足が生じております。

なお、この資金不足を補う財源といたしまして、平成25年度から繰り越された内部留保資金10億5,646万3千円のほか、平成26年度の内部留保資金で補っております。

この結果、27年度への繰越額は16億5,169万4千円で、安定した経営となっております。

以上、簡単ではございますけれども、水道事業の概要について、説明を終わらせていただきます。

## ★下水道事業の概要説明

### 【新谷上下水道部長】

引き続きまして、下水道事業の概要について、これもお手元に配布しております「苫小牧市下水道事業概要平成27年度版」に沿って、説明させていただきます。

それでは、1ページをお開き願います。

本市の下水道は、昭和26年度から事業計画に着手し、市勢の発展に伴う人口増加に対応しなが

ら、積極的に事業を進めてまいりました。平成26年度末の下水道普及率は98.9%であり、全国的にも非常に高い水準となっております。

下水処理施設は、昭和34年に北海道初の終末処理場として供用を開始した浜町処理場、現在の高砂下水処理センターをはじめ、昭和43年に西町下水処理センター、昭和54年に勇払下水処理センターが、それぞれ運転を開始しております。

近年、取り組んでいる事業といたしましては、老朽化した下水道施設の改築・更新事業や浸水対策事業、公共水域の水質保全を目的とした合流式下水道の改善事業がございます。

また、下水処理工程から発生する資源の有効活用として、緑農地利用をはじめとする下水道汚泥の有効利用や消化ガス発電などを実施しているところでございます。

続きまして、7ページをお開き願います。下水道の整備状況について、ご説明いたします。

上の地図で色分けのとおり、市内を西町、高砂、勇払の3つの処理区に分けて下水処理を行っており、着色された地区が下水道計画の認可を受けた区域となっております。

認可区域の面積は5,351.7haあり、このうち、平成26年度末までに整備を終えているのは4,472.1haで、前年度よりも1.9ha拡大しております。

下水道管路の総延長は1,480.5kmで、前年度と比べて11.7km延びております。右下に地図が載せてありますが、管路総延長1,480.5kmと言いますと、苫小牧駅からの線路延長では、愛知県の大高駅までと同じ距離になります。

続きまして、8ページをお開き願います。下水道の普及状況について、ご説明いたします。

本市では、市街化区域と市街化調整区域の一部を計画区域として下水道整備を進めており、先ほども申し上げましたが、平成26年度末の下水道普及率は98.9%と、高い水準に達しております。

次に、9ページ、下水道施設の改築・更新事業でございます。

本市の下水道は、事業開始から64年が経過しており、老朽化した施設も増えていることから、これらの施設の改築・更新を行っていく必要があります。

ページ中ほどのグラフをご覧ください。棒グラフは、管路の年度別の整備延長を、また、赤い曲線グラフは、累積の整備延長を示したものでございます。

平成26年度末の管路総延長1,480.5kmのうち、布設後50年以上経過している管は約40.2km、30年以上経過している管は約671.9kmあり、更新時期を迎える老朽管が、今後、急速に増えていきます。

老朽管すべてを短期間で更新することは、昨今の厳しい財政状況から困難でありますので、管路内カメラの積極的な活用により、下水道管の状態を的確に把握しながら、更新や長寿命化対策を行っております。

また、ポンプ場や下水処理センターにつきましても、処理施設の機能維持のため、機械・電気設備の日常的な維持管理を行うとともに、管路施設同様、設備の状況を的確に把握しながら、更新や部品交換による長寿命化対策を行っております。

事業の実施に向けては、国の支援制度であります「下水道長寿命化支援制度」を活用しながら、ライフサイクルコストの最小化や事業費の平準化を踏まえ、計画的かつ効果的に事業を進めていくこととしております。

次に、10ページ、浸水対策事業について、ご説明いたします。

浸水対策事業は、雨水を河川や海などの公共用水域に放流することによって、浸水被害から市民

生活を守ることを目的に行っております。

下の表で示しておりますが、平成26年度末までに整備を終えた区域の面積は3,762haで、前年度に比べて21ha拡大しております。また、雨水管渠延長は552.0kmで、前年度に比べて6.6km延びております。

このほか、近年の異常気象による局地的な集中豪雨に対応するため、平成23年度から今年度まで、明野元町やときわ町などにおいて、13台の雨水ポンプを増設しており、市内全域26台中、半数はこの4年間で整備したものとなっております。

また、雨水吐口の改良や、冠水箇所における雨水バイパス管の整備などの応急的な浸水対策に加え、川沿町においては、昨年度から小糸魚川沿いで、今年度からは小泉の沢川沿いで雨水幹線整備に着手しており、抜本的な浸水対策に取り組んでおります。

さらに、今年度からは、雨水管の設計基準を5年確率降雨の1時間当たり約34mmから、10年確率降雨の約54mmに引き上げ、排水能力の増強を図っております。

一方、ソフト対策としましては、平成25年度に、10台の雨量計により市内全域の雨量を監視する、雨量監視システムを整備しており、併せて、昨年度から配備しておりますポンプ車などにより、迅速な対応を行う体制を構築しており、豪雨対策に最大限努力してまいります。

次に、11ページをお開きください。合流式下水道改善事業について、ご説明いたします。

ページ中ほどのイラストで示しているとおり、下水の排除方式には、家庭などから出される汚水と雨水を一本の管で排除する合流式と、それぞれ別の管で排除する分流式の2種類があります。本市では、事業開始当初、合流式で整備を進めてまいりましたが、その後、分流式で整備していく方針に変更いたしました。現在のところ、合流式下水道の区域は約13%となっております。

本市では、合流式下水道区域の完全分流化を目指し事業を進めているところでございますが、長い期間と多額の費用を要するため、「合流式下水道緊急改善計画」を策定し、公共用水域の環境保全を図ることを目的とし、目標年度でありました平成25年度までに整備を完了し、平成26年度に所定の水質改善効果を確認したところであります。

今後は、浸水対策や老朽化対策など重要な課題があることから、合流区域の分流化については、抑制する方向で考えております。

続きまして、13ページをお開き願います。下水道資源の有効利用について、ご説明いたします。

近年、下水道資源の有効利用につきましては、地球温暖化防止の観点から注目されており、本市でも、各下水処理センターから発生する汚泥を西町下水処理センターに集約し、処理を行う過程で発生する消化ガスや、処理された脱水汚泥の有効利用を図っております。

消化ガスの利用量につきましては、13ページの下に表で示しておりますが、平成26年度における発生量は約234万 $\text{m}^3$ で、内訳は、下水処理センター内の暖房や汚泥消化槽の加温ボイラーの燃料として約133万 $\text{m}^3$ 、全体の57%、消化ガス発電設備の燃料として約91万 $\text{m}^3$ 、39%を占めております。

ページの一番下の写真は、平成16年度から17年度にかけて導入した消化ガス発電機の写真でございます。導入効果としましては、定期点検や維持管理にかかる費用が必要とはなりますが、平成26年度では年間約1,200万円の電気料を削減できました。さらに、二酸化炭素の発生も抑制できることから、年間約900t、一般家庭の約90世帯分に相当する二酸化炭素を削減しており、地球温暖化防止にも貢献しているところでございます。

脱水汚泥の有効利用につきましては、次の14ページに記載しております。年間で約7,340

tの脱水汚泥が発生しておりますが、肥料に必要な窒素やリンなどの成分が豊富に含まれていることから、緑農地利用やコンポスト、民間肥料施設の原料、セメントの原料など、すべてが有効利用されております。

次に、16ページをお開き願います。管路施設の維持管理について、ご説明いたします。

下水道管やマンホールなどは、長年使用している間に土砂や汚泥が堆積し、管の閉塞、破損などが発生することがあります。このため、定期的な清掃やテレビカメラを用いた点検調査を行っており、不具合があれば、その都度、補修や改良を行っております。

また、平成25年度から、苫小牧工業高等専門学校、苫小牧測量設計業協会とともに、産学官の連携事業として、安価な調査が可能な小型カメラロボットの共同開発研究も行っているところでございます。

続きまして、21ページにお進みください。工場や事業場の排水規制について、ご説明いたします。

下水道は、一般家庭からの生活排水のほか、工場や事業所などからの排水も受け入れております。工場や事業所からの排水は、下水道法や市の条例によって厳しく規制され、場合によっては有害物質を取り除く「除害施設」の設置を義務付けるなど、下水道管を詰まらせる物質や下水処理センターの機能を低下させる物質、有毒ガスを発生する物質などが流れ込まないように、管理に努めているところでございます。

次に、財政状況について、ご説明いたします。

先ほどの水道事業と同様に、決算委員会におきまして、決算の認定が決定しておりますが、資料の訂正がございましたので、委員席にお配りしております、A4版「平成26年度下水道事業会計決算の概要」でご説明いたします。

左側の「収益的収支」ですが、これは経営状況を表しております。

収入は、下水道使用料や一般会計からの繰入金など53億5,135万6千円、支出は、施設の維持管理費や人件費、国からの借入金利息など51億8,774万6千円で、この差し引きから消費税を除いた純利益は1億399万6千円となっております。

次に、右側の「資本的収支」ですが、これは設備投資を表しております。収入は、国からの借入金など21億6,926万円で、支出は、下水管や施設の整備費、国からの借入金の元金償還などで39億1,198万7千円となり、消費税を除いた収支差し引きは、16億8,311万3千円の資金不足が生じております。

なお、この資金不足を補う財源といたしまして、平成25年度の純利益3億544万7千円のほか、内部留保資金で補ってしております。

この結果、27年度への繰越額は7億4,052万9千円で、純損益も黒字が続いており、当面は、安定した経営が継続できるものと考えております。

続きまして、22ページをお開き願います。

下水道使用料は、平成6年4月に料金改定を実施しており、現在に至っております。今後一般会計からの繰出金の増額なども見込めない状況の中では、支出の抑制のために、さらなる経費の縮減はもちろんのこと、収入確保については、状況に応じて、資本費平準化債の借り入れなど、企業として効率的、効果的な事業を展開していくため十分検討し、最大限の努力をしてみたいと考えております。

以上、簡単ではございますけれども、下水道事業の概要について、ご説明いたしました。

水道事業、下水道事業とも、市民生活に無くてはならない重要なライフラインであり、将来にわたって、安定的に維持・管理していくことは、事業者の責務であります。

施設の耐震化やゲリラ豪雨対策など、迅速に行動できる体制づくり、災害に強い基盤整備が必要となっております。

また、長期的には、人口減が想定されており、料金収入の大きな伸びは期待できない状況にありますが、老朽化した施設の更新といった課題も抱えている中、事業を取り巻く環境は、一層厳しくなるものと考えております。

経営改善の一環としまして、コンビニ収納や集金制度の廃止、また、一部業務の民間委託を進めているところでありますが、企業として効率的かつ効果的な事業を展開していくために、これからも職員一丸となって努力してまいり所存でございます。

最後になりますけれども、水道事業・下水道事業に対する委員皆様のご理解とご指導をお願い申し上げます。

### ★質疑

#### ○東城委員

- ① 前回、高丘浄水場を見学させていただきました。室内にできあがったお水を溜めておくプールがありました。水質はどうか、ぬめりが出たり汚れたりしないのか。
- ② 浄水場は野ざらしになっているが、動物とかが来て泳いだり汚れたりしないのか。
- ③ 緊急貯水槽の水質が気になっているが、どうか。

#### ○清野水道整備課長

- ① 配水池でのぬめりは特段発生していない。必ず年に一回、各一池を、水を抜いて清掃しており、きちんと水質を管理している。
- ② 濾過池は、川の水を入れて、水を作る施設になっており、下に砂があって砂利があって、必ずそこで汚いものを処理して、きれいな水を作るという施設になっている。また、周りに柵をして動物が入らないような管理をしているので、水質について特段問題はない。

#### ○八木水道管理課長

- ③ 緊急貯水槽を使うときは、職員が必ず立ち会い、水に異常がないか確認する。併せて、普段は通常の水道管とつながっており、常に新鮮な水が循環している。また、毎月施設の点検と水質検査も行っている。

#### ○柳谷委員

- ① 平成23年10月に家事用料金の改定が行われたが、それ以前の割高感がどのように解消され、利用者からはどのような反響があったのか。
- ② 基本料金が8段階から4段階に集約されたが、料金収入への影響、当初立てた計画に対する動向や評価は。
- ③ ボトルドウォーター「とまチョップ水」を今年度3万本作成し、協賛事業者を募り、市内で

の販売を開始したが、これまでの「おいしい水」の定着と合わせて、その評価と反響は。

- ④ 合流式下水道改善事業は、公衆衛生上、環境保全上から取り組んできた経緯がある。改善済みは、高砂下水処理センターで全体の1割ぐらい、西町下水処理センターで27%ぐらいである。長期にわたって多額の改善費用がかかるという点では理解するが、分流式計画の今後の見通しがわかれば聞かせてほしい。

#### ○深蕨営業課長

- ① 料金改定後の使用者の反応では、約40%の使用者で料金が下がっていること、これまでは16t以下が基本水量であったが、16t以下の使用者が2%増えており、節水意識がさらに向上している。
- ② 23年10月の家事用料金改定の影響は、当初年間4,100万円と見込んでいたが、年間3,400万円程度の減収となり、700万程度見込みより少なかった。その理由としては、調定件数の増や使用水量の減少等の使用状況の変化が一番の原因とおさえている。
- 使用量の減少による減収については、社会的な傾向である単身世帯の増や高齢者世帯の増、節水意識の向上や節水機器の普及によるものと考えており、今後とも同様な傾向が続くのではないかと見込んでいる。

#### ○久慈総務課長

- ③ 平成19年度の全国植樹祭において「苫小牧のおいしい水」をPRするため、初めてボトル化し配布した。その後、平成24年度から1万本の無料配布を続けてきたが、ラベルに苫小牧の公式キャラクターである「とまチョップ」を入れて無償配布したところ、申込みが多く年度末を待たずに終了する状況が生まれた。気軽に、たくさんの方に飲んでもらいたく、上下水道部の若手職員が検討を重ね、「とまチョップ」をモチーフにして、27年度から販売により「苫小牧のおいしい水」をPRすることとした。

協賛については、57社の企業・団体に、1万1千本ほどの協賛をいただいた。

販売については、市役所売店・道の駅・観光協会・アルテンの市内4か所のほか、上下水道部の直販により、1万5千本ほどを販売している。

その他、上下水道事業や視察で3千本ほど無償配布し、11月中には在庫が不足する見込みになっている。

6月29日の販売開始イベント以降、市内のイベント、各種大会や会議などでも使用され、大変好調な販売となっており、改めて、「とまチョップ水」の人気と「苫小牧のおいしい水」水道水が、苫小牧が誇れるものだというを実感している。

11月中に在庫不足を生じる状況が生まれることから、追加での製造を準備している。

#### ○前田下水道計画課計画係長

- ④ 平合流式下水道改善事業については、平成16年度から25年度までの10年間で、緊急改善事業を実施し、平成26年度には所定の改善効果を達成した。

合流区域全体の17%が分流化済みになっているが、まだ8割以上が残っており、多額な費

用が必要になる。

ただ、今後もさらなる良好な水環境を保全するため、合流式下水道改善事業については、進めていく必要があると考えているが、昨今のゲリラ豪雨対策や施設の老朽化対策など、緊急を要する重要な課題がたくさんあり、このため、今後の合流式下水道改善事業については、これら喫緊の課題を優先することとし、他事業の計画との整合を図りながら、抑制する方向で考えている。

○柳谷委員

- ① 合流式下水道改善事業について、今まで10年間やって、環境に与える影響を一方では心配しながらも、しかし、緊急のことはやらなければならないという判断がベストであれば、それはやむを得ないとは思いますが、今までの環境上の改善策をどう考えているのか聞かせてほしい。

○新谷上下水道部長

- ① 10年間の緊急改善事業の中で、汚濁負荷量の削減は、各モニタリングする場所で改善ができた。それから、合流式下水道というのは、雨が降って増えた分がオーバーフローして、川に流れていくため、越流して流れる回数を10年間で半減させることも達成した。さらに、夾雑物が放流先に流れていかないように、スクリーン等で防ぐ対策も、すべて10年の緊急改善事業で行っている。いわゆる、最低限の環境に対する配慮は、緊急改善で一段落したと認識している。

防災上の耐震化とか、六十数年経ってきている下水道管の入れ替え、処理場の機械の取り換えのほか、いま一番苦慮しているのがゲリラ豪雨対策で、当初予定していなかった突然の出費をして対策をしているところであり、ここ数年は、そちらのほうに予算的なものを集中させていきたいと思っている。

しかし、合流式改善や老朽化対策は長期的な事業であるため、これから計画をきちんと立てて、合流式改善も含めて、粛々と効率的にやっていきたい。

○佐藤委員

- ① 「とまチョップ水」について、「とまチョップ」も好きだが、スイミーのファンもいて、年に何回かデザインが変わるのであれば、上下水道部なのでスイミーの出番が増えないだろうかという声が周りに出ているので、ご計画があれば教えてもらいたい。

○新谷上下水道部長

- ① ご存じのとおり、全市的に「とまチョップ」というのは「ゆるキャラ」ということで取り組んでおり、それとタイアップすることから、当面は「とまチョップ」でやっていきたいと思っている。

今回増産するが、新年度もまた新たに作るので、そのときには、ラベルのデザインをいろいろ考えていきたいと思っており、スイミーにもそういう声があるということで、ラベルのデザインにも考慮していきたいと考えている。

★閉会

【松原会長】

他にありませんか。

ご意見・ご質問等が無いようですので、この後は施設見学会がありますが、これをもって本日の審議会を終了させていただきます。

ありがとうございました。